

可哀想な文ちゃん



成人向け
FOR ADULT ONLY

まえがき

このエロ漫画は東方projectの二次創作です。
原作と異なるキャラ設定やレイプ展開などがあるかもしれません。
そういうのが大丈夫な人だけ読み進めて下さい。

あとがき

初めまして、またはお久しぶりです。緑肉です。
スペースの都合でこの位置にあとがきが来て申し訳ないです。

今回は初めてのエアコミケ参加という事で一念発起致しまして、
初めてのR-18漫画でのエア新刊を配布する事にしました。
可哀想な目に遇っている不憫な文ちゃんは描いてて最高に楽しかったです。
拙い内容ではありますが、少しでも楽しんで頂けたなら幸いです。

また、この作品はエロ漫画の練習を兼ねており
自力で描くのが難しいポーズの一部を他の方の絵や写真を
真似て描いたりしております。
万が一ネットに察しがついても温かく広い心を持って
見なかった事にして頂けると私が幸せになれます。

それではまたどこかで元気にお会いできますように。

緑肉

私、射命丸文は近頃人里でささやかな噂になつてゐる、里外れの洋館の廢墟へと足を運んだ

そもそも、ここ幻想郷において幽霊など珍しいモノではないそれでもなお此処へ足を運んだのは他でも無い

お邪魔しますよ…つと

カズンオオオ

ただ単純に、新聞のネタが無かつたのだ。適当に写真の数枚でも撮つて夏の怪談特集などと銘打てば紙面は埋まるーその程度の考えだつた

だが噂といつても、やれ「幽霊が出る」やれ「無人の善なのに人影が動いた」等と言つた他愛も無い類のものである

…どなたかいらつしやいせんかー？

カズンオオオ

カズンオオオ

仮に幽霊が出てきもーまあ、どうという事はないこちらは天下の烏天狗、並の幽霊如き東にならうとも相手にはならないこれはただの気乗りはしなが楽な仕事

…まあこんな所に誰もいる訳がー

そんな風に私は甘く考えていたーそれが…まさか…あんな事になつてしまうなんてー

あがあつ!?

ハチツ!

おう、随分な上玉あ拾って
きたじゃねえか



こいつ里で見たことあるな…
確か、天狗のブンヤで射命丸文
って女だよ

…ご存知頂いてるようで光栄です
…ところで、ここは無人の廃屋
と伺ってたんですが…
あなた達はどちら様なんです？

あ？俺らかい？
このポロ屋を溜まり場に
してる、ただの里の人間さ

…幽霊がいる、と里で聞いて
来たのですが…あなた方何か
ご存知で？



ああ、そりゃあこの家に
里の人間近づかせないよう
俺らが流した方便さ
代わりに可愛いお嬢さんが
釣れちゃったがねえ

…そうですか
ところで…先ほどから
体の自由が効かないの
ですが…



私の体に何を
したんです？

ああ、それかい？

河童の娘に友達ツラして
「夜道に出る妖怪が恐いから
護身用具が欲しい」って
ちよいとお願いしたら

すぐに作ってくれたぜ
へへ、ちよろいもんだ

あんのバカ河童…！
帰ったらシメる…！



どれ、もうお喋りはいいだろ…
そろそろ体使わせてもらうぜえ

ちよっ!? あ、あなた何を!
そ、それに体使うって…!?

あー?
んなもん決まってるだろうが



そりゃこいつさ、
スタンバトンって言ってな
外の世界じゃ護身用具らしいんだが



すげえ電撃出して妖怪相手
だって一発で痺れさせちまうんだ
効果の程はおめえが一番知ってるだろ

せっかくこんな辺鄙な所まで
わざわざマンコデリバリー
してくれたんだからよお
お言葉に甘えて美味しく
頂くつってんだよ

つぷっ

なっ...
ふ、ふざけないでよ!

離れないっ!
な、なんて人間如きに
この私がーッ!

おーおー
如きたあ言うねえ

ほうれ、文ちゃんが
見下してる人間如きの
チンポが入っちゃうぞお

ざぶっ

うああ!?だ、ダメえ!
それ以上挿入れないでっ!

ゆ、許さないからっ!
それ以上っ!挿入れたら
私、絶対に!

そーらよっつと!
天狗の生マン頂きだあ!

嫌
アアア!

ははっ！カリい見た目の割りにやあ狭くてイイ具合してんじやねえか！ざまあ見ろや！いつかテメエをこうしてやるのが夢だったんだよお！

ズパッ
ズパッ
ズパッ

あゝあゝあゝ

いつも済ました顔の裏でさつきみてえに俺ら人間を見下してたんだらうがあ！クソ生意気によお！

ま、待ってえ……！さ、さつきの失言なら謝るっ……からあ……！

うるせえっ！おらっ泣けよっ！人間如きにメス穴あエグられて無様に泣き喚けよオラア！

こ、この人間……！調子に……乗って……ッ！

へへ、天狗の穴あ犯してるとっただけでありえねえくらいチンポバキバキになってやがらあ……

おい、そろそろ膣内に出すぞお！

……えっ？な、膣内って……

この腹あ孕ませるってんだよ！オラッ射精るぞ！射精るぞお！

なっ……ま、待ってダメエっ！あ、赤ちゃん出来ちやうっ！や、やだ！絶対やだあ……！

ビュ

うるせえっ！オラッ膣内出したあ！

ヤダアアア

ズロオ...ッ
ビクッ

へっへ、クソ生意気な
天狗マンコにたっぶり
種付けしてやったぜえ！

どろろ...

はー！

ビクッ

はー！

サイコーの気分だなあオイ！
おい文、おめえはどうよ？
サイコーに惨めかよ、ええおい？

あ、あなた...この私に
ここまでして...っ
絶対に許さないから...

殺してやる...
絶対に後で殺して

ああ？

お前バカか？何全部終わった
ような事言ってるの？
まだ俺らが使ってるねえだろが

か

くちゅ

くちゅ

...えっ？
ま、待ってよ...っ
今...そこ、乱暴に
されたばかりで

おお、締まるねえ
こいつはたまんねえや

あつ...ぐうっ！

キヌッ

こ、この男...っ
人の体を...無造作にっ...
何の躊躇いも無くう...



ああ？何便所ごときが口答えしちやつてんの？

ひっ…ふ、ふざけないで…っだ、誰がそんな事…っ

おい文、てめえだけ楽しんでんじやねえぞコラ
次てめえの穴にプチ込むチンポだよ、しゃぶって準備しときな



へへっ、見ろよすっかり余裕無くしてひでえツラしてやがらあ

里に大勢いるお前エのファンが見たらさぞガツカリするだろうなあ



じゃあどうすんだよ？選ばせてやんよ

…どれ、驥代わりにもう一発いっとくかあ？

や、それ嫌ア！



はっははっ！おい見ろよ！こいつ、てめえをレイプするチンポを自分からしゃぶって準備してんぞ！

…や、やるから…っそれは勘弁…して

マジウケるわ！さんざ嫌々言っただけどよこいつも内心こういう扱いされんの期待してここ来たんじやねーの？

ははっ！そりやありえるなあ！

く…くそっ…クソお…ッ！好き勝手言っ…っ

でも…さっきの電撃を受けたらまた動けなくなる…今は耐えて、大人しく従って…痺れからの回復を待つしか…っ



こつちも出すぞつ
喉鳴らして飲めオラア!

んー!んぶつ
んんっ、んーっ!



へっへ、今すぐ俺の
ザーメンも一番奥に
注いでやつからなあ!

あーヤベエよこの穴
すげえチンポに絡み付いて
ぐいぐいシゴキ上げてきやがる



ビュルルルル

んんんーっ!?

オラアツ!ニ発目エ!



はーっ…はーっ…

も、もう十分でしょう…っ
もうっ…か、勘弁してえ…

ああー？

何言っただよ
まだ始まったばかり
じゃねえか

そ、そんな…
無理…もう無理よお…

おい、今日中にこいつ
孕ませちまおうぜ
里から他の男連中も
呼んでこいよ

や、いやあ…
許して…許してよお…



次々にこの廃墟を訪れた新たな男たち…
その数はゆうに二十人を超え…その全てが、
何の躊躇いも無くこの私の体を貪った！

それからの陵辱は
苛烈を極めた…

どれだけ媚びて許しを乞いても嘲笑われ、
遊び半分に、無遠慮に人間如きの精が
私の中に注がれた…無様だった
そうしてらうちに初めの体の痺れは
薄れていたが…最早手遅れだった！



ズッ…！

お、お願い…っ
もうっ…中は…
出さない…でえ…っ

ハハハ！
おめえこれまで自分の
マンコに何発出されて
ると思っただよ！
もう手遅れだったの！

そうらっ！
孕んじまいなあ！

うあっ…あ、あああ…
イヤ…もうイヤあ…



数時間もの間、暴力的な扱いと
荒々しい刺激に晒された私の体は
すでに抵抗する余力を失っていた…
私はただ、男たちの気が済むまで
されるがままに体を使われ続ける
だけの人形に成り下がっていた！

はーい文ちゃん？
可愛い顔こっちに向けてねー

ま、待って…お願い…っ
撮らないで…

こ、こんな姿…
撮らないでえ…っ

夜明けを迎える頃、ようやく、私の屈辱の生き地獄も終りを迎えた…
休み無く注がれ続けた男達の穢れが昨夜まで大切にしていた私のあの部分から溢れ出し、悔しさに涙が止まらなかつた…

おい、顔隠させんな！
腕え押さえつけとけ！

でも…
それで終りでは無かつた…

おい、天狗様よお？
てめえのみつともねえ姿の写真…
バラ撒かれちゃあ困るよなあ？

お前らが見下してる人間
如きの慰みモノになった
なんて知れたら…よお？
お仲間内での立場も大分マズい
事になるんじゃないかねえの？

これから毎晩此処に通つて
俺達にそのエロい体使わせろや

なあに、その穴あブツ
壊れて俺らが飽きたら
解放してやつからよお？
ハハハハハッ！

私の矜持を砕いたこの永い一夜は—
ただの始まりに過ぎなかつた—

う…ひぐっ…
くそ…くそお…

はあっ

はあっ

—その日から毎晩、私はこの廃墟に
通い続けた…自ら犯される為に、だ

来る度に新たな顔が増えていた
全員を満足させる事を強要され、
私は常に複数の男の相手をさせられた



ある時男達は、弱みを握られ言いなりになる
しかかない私に自分で腰を振ることを命じてきた
私が見下してきた人間の男に、自ら跨れと…
男達は笑っていた—
私は、泣きながら腰を振り続けた—

：付近の河原に住む浮浪者達に
戯れに貸し出された事もあった…
長らくの女日照りだったのだろう、彼らは
夢中になって私の体に腰を打ちつけた

へへへ、久しぶりの女がこんな
かわいい天狗様たあよお、
あのあんちゃん達にや感謝
しなくちやなあ

あつ！あああつ！
ぬ、抜いてえーっ！
汚いの抜いてよお！

おおっと、逃さねえぞお？
今から嬢ちゃん綺麗なお尻によお
ン年モノの溜まったオレの汚えの
たっぶり出してやっからよお？
そら、射精するぞ！出るっ出るっ！

うああああーっ！

ドッ

噂を聞きつけた河原中の浮浪者達が集まり、
私はその全ての男達に犯された
誇り高き烏天狗の子を身籠る筈のその場所は、
彼らの吐き出した汚れたモノで満たされた—



またある時、日中の里を歩いていたら突然腕を捕まれて路地裏に連れ込まれ…挿入に邪魔な下着だけをスラされて無造作に犯された事もあった！

あ？ だったら穴あ締め上げて早いところ絞り取ってくれよ俺も暇じゃねえんだよさっさとしろよ、オラッ

その男は手早く私の中に数度精を吐き出すと、何事も無かったかのように日常の人混みへと消えていった…

あつ、あうっ！ やあ…こ、こんな場所です…っだ、誰かに見られたら…！

あぐ、かはっ…！ くっ…は、早く…早く終わってえ…っ

「ちよつと小腹が空いたからスナック菓子を食べる」そんな感覚で手軽に強姦される、今の私はその程度の価値の女なのだと思われられた

町のゴロツキがたむろする薄汚れた安酒場に連れて行かれ、小銭で体を売らされた事もあった…彼らは嬉々として、この町のどの娼婦よりも安い私を買い…犯した

うへへ…まさかあの射命丸文がこんな商売してるたなあ安穴の割りにやあそこそこ締まるじゃねえか

犯される度に積まれていく小銭を見て…私は…惨めさに泣いた

おい、文ちゃんよお彼氏どもの酒代稼ぐんだろがよ？

私の体に支払われた金は、稼いだ端から男達の粗末な飲み食いへと使われた…

もつとてめえでケツ振って客の回転よくしろよ、オラッ

仕事を終えた私に男達は食い残した食事を食べさせ、醜く笑いながら言った「自分の股で稼いだ飯は美味いか」私は答えず、泣きながら食べ続けた



そうして…一ヶ月が経った

ふーい、よし
今日のお勤め終了

今日も頑張ったねえ
文ちゃんお疲れさーん

ハッハッハッ

はっ…はっ…

へへ…悪いな兄さんらよ
俺、小便しに立ち寄った
だけなのに混せて
もらっちゃまってよお…

いやあ、公園の公衆便所で
プライド高え天狗様を便所扱い
ってのは中々悪くなかったな

あー気にすんなよ
公衆便所はみんなのモンだから
よお？順番守って仲良く
使おうぜ！ギヤハハッ！



次はどうすつかねえ
犬の相手でもさせるかあ？

ハッハッ！そいつはいいや！
昼間は犬天狗どもアゴで使って
夜は犬コロに穴あ使われるってか！
傑作だなあ！ハハハハッ！

や…やだあ…
許して…

許して…
もう…許してよお…

今日もまた、私は犯される…
男達もまた、飽きもせず私を犯す…

じゃあ明日は犬相手に
ケツ振ってくれよな！
じやーな、文ちゃんよお！
ヒヤハハハッ！

私がいるこの地獄は、
未だ終りを見せてくれない

可哀想な文ちゃん

東方projectファンブック

奥付

原作：上海アリス幻楽団さま
発行：2012年8月11日（エアC82にて）
印刷：エアし〇や出版さま
発行者：しもふりグリーンミート
描いた人：緑肉（pixiv id=103709）